

産業別四半期見通し調査結果

(2019年1～3月期見通し)

■ 県内産業天気図

◇ 2018年10～12月期の現況

➤ 全17業種中、「晴れ（好調）」が2業種、「薄日（順調）」が8業種、「曇り（普通）」が5業種、「小雨（低調）」が2業種となった。

◇ 2019年1～3月期の見通し

➤ 見通しは、「晴れ（好調）」が2業種、「薄日（順調）」が9業種、「曇り（普通）」が4業種、「小雨（低調）」が2業種となった。方向感では、「やや上昇」が1業種、「横ばい」が14業種、「やや下降」が2業種となっている。

天気図記号	2018年 7～9月期現況	2018年 10～12月期現況	2019年 1～3月期見通し
 晴れ（好調）	4 業種	2 業種	2 業種
 薄日（順調）	6 業種	8 業種	9 業種
 曇り（普通）	5 業種	5 業種	4 業種
 小雨（低調）	2 業種	2 業種	2 業種
 雨（不調）	0 業種	0 業種	0 業種

■ 1～3月期見通しのポイント

- 製造業では、自動車関連を中心に設備投資需要が堅調な「工作機械」「半導体製造装置」の2業種が「晴れ（好調）」を維持する見通し。また「産業用機器」「電子部品・デバイス」「自動車部品」「光学・計器」「プラスチック製品」の5業種が「薄日（順調）」を維持する見込み。
- 非製造業は、「大型小売」「公共工事」は「小雨（低調）」が続くとみられる。一方、省力化ニーズの高まり等から機械需要が強い「機械器具卸」、消費税増税を見据えた動きが強まる「民間工事」、製造業を中心に順調な荷動きが予想される「貨物」は「薄日（順調）」が続く見込み。年度末を迎えて需要が高まる自動車販売は「やや上昇」し「薄日（順調）」となる見通し。





































































照 会 先

一般財団法人 長野経済研究所
調査部（担当：桑井、久保田）
TEL：026-224-0501


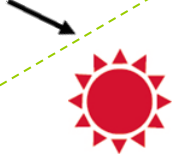
<産業別天気図一覧(17業種)>

■調査内容：業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。


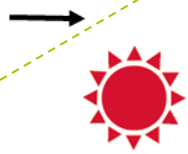
■調査期間：2018年12月中旬～19年1月中旬 ■調査回答企業：県内主要企業17業種の126社

業 種	前期 (7～9月期)	今期 (10～12月期)	来期 (1～3月期)	
工 作 機 械				
半 導 体 製 造 装 置				
産 業 用 機 器				
電 子 部 品 ・ デ バ イ ス				
自 動 車 部 品				
光 学 ・ 計 器				
プ ラ ス チ ッ ク 製 品				
飲 料 製 造				
食 料 品 製 造				
機 械 器 具 卸				
大 型 小 売				
自 動 車 販 売				
公 共 工 事				
民 間 工 事				
旅 客				
貨 物				
ホ テ ル ・ 旅 館				


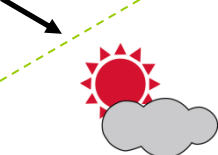
工作機械 : 自動車関連を中心に需要は好調に推移

<p>現況</p>	<p>国内は、自動車関連や建設機械・医療関連など多くの業種で、生産能力増強や省力化投資の需要が旺盛だった。海外は、北米や欧州向けは自動車産業を中心に順調に推移した。アジア向けは、中国はスマートフォン関連で受注が減少したものの、自動車関連は底堅く、タイやインドネシアも自動車関連を中心に堅調に推移した。工作機械の基幹部品であるリニアガイド（位置決め装置）等の部品不足は改善がみられたものの、依然として納期の長期化は続いた。</p>
<p></p>	
<p>見通し</p>	<p>国内は、自動車関連を中心に設備投資需要は好調を維持する見込み。一方で、半導体関連や電子部品関連では、受注は弱含むとみられる。海外は、北米や欧州向けは自動車産業を中心に順調な見通し。アジア向けは、中国はスマートフォン関連の受注の減少は続き、米中貿易摩擦の影響から設備投資に慎重な企業が増えるなど、受注は弱含む見通し。タイやインドネシアなどの東南アジアでは自動車関連で需要が増加する見込み。基幹部品の不足状況は続くものの徐々に緩和されていく見通し。</p>
<p></p>	


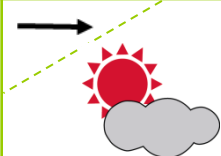
半導体製造装置 : 安定受注を見込むも、中国向けの需要鈍化が懸念される

<p>現況</p>	<p>国内は、自動車などに搭載されるパワー半導体の生産が安定的に推移し、製造装置は堅調な受注動向となった。海外は、スマートフォンの需要鈍化や米中貿易摩擦の影響等により半導体関連の投資を先送りする動きもみられたが、製造装置全体では好調な需要を維持した。中国や韓国を中心にデータセンター用サーバー向けのメモリーやIoT製品向けのセンサーの生産が旺盛で、関連装置の引き合いが継続した。業界全体では、これまで深刻化してきた部品調達難に徐々に緩和の傾向がみられたが、生産遅延の改善には至らなかった。</p>
<p></p>	
<p>見通し</p>	<p>国内は、車載用のパワー半導体向けで、製品の高度化や生産の効率化に対応する製造装置を中心に堅調な需要動向となる見通し。海外は、メモリーやセンサー向けの半導体ニーズの増加に伴い、製造装置全体では安定した受注が見込まれるが、スマートフォン向けの半導体製造など一部では需要鈍化の影響が懸念される。また、米中貿易摩擦の長期化により、中国関連の需要が弱含むとみられる。業界全体では、部品調達難の緩和が進むとみられ、生産遅延の改善が期待される。</p>
<p></p>	


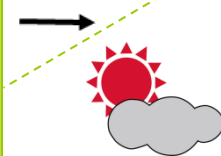
産業用機器 : FA機器は、中国向けを中心に海外需要低下を見込む

<p>現況</p>	<p>FA機器は、国内は自動車関連の生産ラインに用いられる工作機械や産業用ロボット向けを中心に、受注は順調だった。海外は、米中貿易摩擦の影響やスマートフォンの需要鈍化などから、中国向けの産業機器を中心に弱い動きとなった。車載関連機器は、国内はハイブリッドやEVなど新型車向けの製品が順調で、海外は米国向けの受注が底堅かった。冷却機械や空調機器は、好調な工作機械等の動向を背景に安定した需要がみられた。給湯器やガスヒートポンプなどの住設機器は、リフォームや機器の入れ替えにより堅調な需要となった。</p>
<p></p>	
<p>見通し</p>	<p>FA機器は、国内は工作機械や産業用ロボット向けを中心に順調な受注を見込む。海外は、米中貿易摩擦やスマートフォンの需要鈍化の影響などから、中国関連の設備投資が一層弱い動きとなり、機械需要は低下する見通し。車載関連機器は、国内は環境性能の高い新型車向けの製品需要が増加し、海外は米国向けが底堅く推移する見通し。冷却機械や空調機器は、省エネニーズなどが下支えとなるも、機械需要の低下に伴う受注減少が見込まれる。住設機器は、設備の新設や更新に伴う安定受注が期待される。</p>
<p></p>	


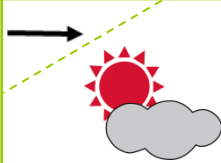
電子部品・デバイス:スマートフォン・半導体製造装置向けが減少、自動車向けは好調

<p>現 況</p>	<p>スマートフォン向けは、例年、完成品の年末商戦に向けて部品受注が高まる時期であるが、買換え需要が低調となったことから、受注水準が高かった前年同期と比べると減少した。また、半導体製造装置に組み込まれる電子制御部品は、高い受注水準にあるものの、中国における設備投資の先送りなどから受注は減少した。一方、車載用電子部品は、国内・海外ともに需要は高く、モデルチェンジの効果もあり好調が続いた。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>スマートフォン向けは、完成品の普及が進み市場が飽和状態にある中で、買換え需要は弱く、部品受注は前年の水準を下回る見通し。また、半導体製造装置に組み込まれる電子制御部品も中国を中心とした需要の弱さから、部品受注はやや減少する見込み。一方、自動車向けは駆動装置やブレーキなどさまざまな領域で需要が高まっており、年度末に向けて、部品受注は好調を維持する見通し。</p>
	


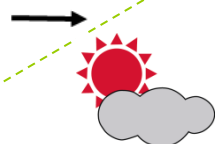
自動車部品 : 消費税増税に伴う受注増加の動きに期待

<p>現 況</p>	<p>国内は、軽自動車など新型車向け需要が好調だったほか、前年の一部完成車メーカーにおける検査不正問題の反動などもあり、受注動向は前年を上回った。海外は、北米向けは、完成車販売は伸び悩んだものの、日系メーカーが販売の拡大を進める多目的スポーツ車 (SUV) の需要が拡大し、部品受注は堅調だった。東南アジア向けは、新車販売が好調に推移し、受注は増加した。中国は、米中貿易摩擦に伴い受注の減少が一部でみられたもの、需要全体では底堅かった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>国内は、年度末にかけて需要が拡大する中、新型車向けの需要が引き続き堅調に推移するとみられる。また、消費税増税前の駆け込みに伴う受注増加の動きにも期待がかかる。海外は、北米向けは、完成車需要には一服感がみられるものの、多目的スポーツ車 (SUV) を中心に販売は安定的に推移する見通しで、受注は堅調に推移する見込み。東南アジア向けは、買い替え需要の拡大が続くとみられ、受注は増加する見込み。中国向けは、米中貿易摩擦の影響により、景況感の悪化などに伴う需要の鈍化が懸念される。</p>
	


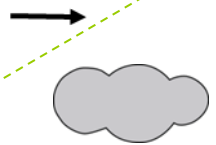
光学・計器 : 光学は自動車向けが順調、計器はガスメーターが好調

<p>現 況</p>	<p>光学機器関連は、スマートフォン向けや光通信関連の部品受注は減少した。一方、半導体製造装置に搭載される光学機器の受注は、高水準が続いた。事業者用プロジェクター向けのレンズユニットは底堅かったほか、自動車向けは、LEDヘッドランプなどが緩やかに増加した。計器関連は、産業用設備の部品需要が弱まり計器類の受注が減少したが、建設機械向けは好調だった。ガスメーターも、国内の取り替え需要から受注は好調だったほか、海外のインフラ向けの生産が増加基調で推移した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>光学機器関連は、スマートフォン向けや光通信関連の受注は減少が続く見込み。一方、半導体製造装置向けの光学機器はやや弱い動きになるとみられるが高水準を維持する見通し。プロジェクターのレンズユニットも高輝度の製品を中心に順調の見通しであるほか、自動車向けでは、モデルチェンジの効果も続き、付加価値の高いLEDヘッドランプなどで受注は順調を維持するとみられる。計器関連は、産業用設備の部品は減少が続く見込みであるが、建設機械向けは順調が続く見通し。ガスメーターは、国内やアジア向けを中心に好調が続く見込み。</p>
	


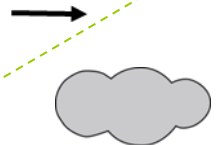
プラスチック製品：スマートフォンは減少するも、自動車向けは堅調、容器類は好調

<p>現況</p>	<p>スマートフォン向けは、例年需要が高まる時期であるが、完成品の需要が弱く、部品受注も前年を下回った。OA・情報機器は複合機の部品などは底堅く推移した。自動車関連は、国内外ともに人気の新型車を中心にコネクタやブレーキなどの部品受注が堅調だった。容器類は、高品質な化粧品に対する海外の需要が強く、化粧品容器向けの受注が高水準で推移した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>スマートフォン向けの部品需要は減少が続く見込み。一方、OA・情報機器は、複合機などの受注が底堅い見込み。自動車関連は、国内外ともに、人気車種のコネクタやブレーキなどの部品受注は堅調に推移するとみられる。容器類は、中国を中心に海外で人気の高い化粧品向け容器の需要が引き続き高い水準を維持するとみられ、部品受注も好調が続く見通し。</p>
	


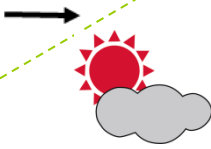
飲料製造：各種飲料とも需要は横ばい基調を見込む

<p>現況</p>	<p>清涼飲料水は、茶系飲料やコーヒー飲料などを中心に堅調で、ホット飲料の需要もあり、前年並みの生産水準を確保した。果汁・野菜飲料は、夏の猛暑や秋の台風の影響でトマトやリンゴなどの原料が不足し、生産量は伸び悩んだ。清酒は、年末の最需要期を迎え特定名称酒や発泡性のあるスパークリング清酒は堅調だったが、普通酒は需要が減少傾向にあり低調だった。ワインは、秋から年末にかけて消費が増え、日本ワインの評価の高まりもあり、需要は底堅かった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>清涼飲料水は、ホット飲料も含めて堅調な需要が見込まれ、引き続き前年並みの生産量となる見通し。果汁・野菜飲料は、需要は横ばい基調で推移するも、原料不足による生産への影響が懸念される。清酒は、普通酒の落ち込みを特定名称酒やスパークリング清酒のほか、年間を通じて需要が高まっている甘酒などで補っていく。ワインは人気銘柄を中心に安定した需要が期待される。飲料業界全体では、ビンなどの資材価格や流通コストの上昇が見込まれ、収益を圧迫するとみられる。</p>
	


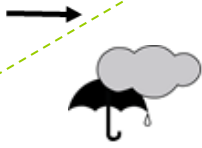
食料品製造：健康や時短関連商品を中心に堅調に推移

<p>現況</p>	<p>味噌は、即席など簡便な商品は堅調だったが、気温が高めに推移したことから鍋物需要が弱く生味噌の販売は伸び悩んだ。製粉は、年末の需要期を迎え、前年並みの受注を確保したが、原材料価格の上昇が収益を圧迫した。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、スープや惣菜など簡便性の高い商品の販売が増加した。加工肉や大豆関連製品は、健康関連など付加価値の高い商品の販売が堅調で利益を確保した。全体として、原材料価格や燃料費の上昇が収益を圧迫した。また人手不足に伴い、人件費の上昇や一部では受注を抑制する動きがみられた。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>味噌は、即席などで堅調が続く見込み。気温の低下で鍋物需要の高まりに期待がかかる。製粉は、前年並みの受注を維持するとみられるが、原材料価格の高止まりは続くとみられ、収益への影響が懸念される。乾燥食品やコンビニ向け惣菜は、時短需要の拡大を背景に簡便性の高い商品の販売が引き続き堅調に推移する見込み。加工肉や大豆関連製品は、健康関連商品を中心に販売が伸びる見通し。原材料価格や燃料費等のコスト増加に伴う収益悪化が引き続き懸念される。</p>
	


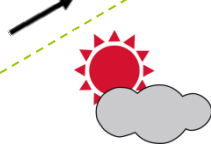
機械器具卸 : 設備投資意欲は高く、機械需要は順調に推移

<p>現 況</p>	<p>業種・規模を問わず多くの企業で省力化のニーズは高く、機械需要は順調だった。専用機などの一部機械で続いていた納期の長期化は改善がみられた。機械に取り付ける切削用工具類や金属板等の消耗品受注は、自動車関連メーカーを中心に生産が活発であり順調に推移した。</p>
	<p>配線機器や分電盤などの電設資材の受注は、製造業の工場新設や一般住宅向けなどの民間工事は底堅く推移したものの、公共工事での大型案件は少なく、全体では伸び悩んだ。仕入価格や物流費の上昇により一部では利益率の減少がみられた。</p>
<p>見 通 し</p>	<p>設備投資意欲は引き続き高く機械需要は順調に推移する見通し。一部機械における納期の長期化は緩和していく見通し。また、公共工事で教育施設への空調設備設置工事の発注が予定されており、空調機器の引き合いの増加が期待される。機械に取り付ける消耗品は順調な見通し。電設資材は、製造業では拠点整備などが複数予定されており堅調に推移する見込み。</p>
	<p>大手メーカーが蛍光灯照明器具の生産を3月で終了するため、LED照明の需要が高まることが期待される。</p>


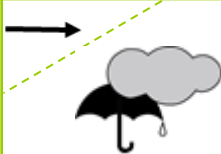
大型小売 : 食料品は堅調に推移するも、競争激化が懸念される

<p>現 況</p>	<p>大型小売店では、気温が高めだったこともあり衣料品が低迷したほか、食料品の動きも弱まったことから、全体の売り上げは前年割れが続いた。百貨店は、お歳暮ギフトがほぼ前年並みだったほか、化粧品などは堅調だった。しかし、主力の衣料品はコートなどの冬物衣料が振るわず低調だった。スーパーは、総菜や飲料などの売り上げは増加したものの、鍋物食材など冬の季節商品が振るわなかった。また、人手不足に加え消費者の低価格志向に伴い競合との価格競争が続くなど、収益環境は厳しいものとなった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>大型小売店では、衣料品など冬物商品が出遅れた影響が懸念されるものの、食料品は生鮮食品を中心に底堅く、全体の売り上げは前年並みの見通し。百貨店は、化粧品などの売り上げ増加が見込まれるほか、バレンタインなど季節催事による集客が期待される。ただ、冬物衣料の出足が鈍かったこともあり、衣料品の売り上げは前年を下回って推移する見通し。スーパーは、生鮮食品や総菜などを中心に堅調な推移が見込まれる。一方、人手不足や価格競争は今後も続くことが予想され、新規出店などもあり競争激化が懸念される。</p>
	


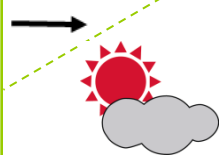
自動車販売 : 消費税増税前の駆け込みに向けた動きに期待

<p>現 況</p>	<p>新型車に対する堅調な需要がみられ、販売台数は前年を上回った。中でも軽自動車は販売が好調だったほか、小型車も前年の一部完成車メーカーにおける検査不正の反動がみられ、販売は前年を上回った。また、安全への関心の高まりを背景に、安全性能が高い車種も販売を伸ばした。中古車は、下取り車の確保が安定的に進み、低燃費車を中心に販売が堅調だった。輸入車は、低価格帯など幅広い車種を揃える中で需要が拡大しており、販売台数は前年を上回った。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>年度末の最需要期を迎え、売れ筋の軽自動車が販売をけん引する見通し。安全性能の高い車種も、引き続き需要が拡大する。また、消費税増税に向けた駆け込み需要が動き出すとみられるほか、1～3月期は、4月以降にエコカー減税が縮小される対象車種の販売増加も期待される。中古車は、新車販売の増加に伴い下取り車の安定的な確保が進むとみられ、販売は堅調に推移する見込み。輸入車は、幅広い年齢層から需要を取り込んでいるほか、駆け込み需要も期待され、販売を伸ばすとみられる。</p>
	


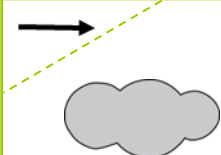
公共工事 : 空調関係で工事量の増加が見込めるも、全体では低調に推移

<p>現況</p>	<p>県では、防災・減災対策工事のほか、道路の改良工事が複数発注され、前年並みの工事量を維持した。国では三遠南信自動車道関連などのインフラ工事が、市町村では教育関係施設などの建築工事が発注されたものの、全体的に大型工事が少なく、前年の工事量には及ばなかった。資材価格や労務費が引き続き高値圏で推移したほか、一部事業者では特定の資材の不足から調達に時間がかかり、工事の遅れを招くケースもあった。施工管理を行う技術者の不足は引き続きしており、改善はみられなかった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>国では引き続きインフラ関連の工事が見込まれる。県や市町村では庁舎など大型の建設工事も見込まれるが、県内業者単独での受注は難しいとみられ、業界全体としては引き続き低調に推移すると見込まれる。また、昨年夏の猛暑を受けた国の施策により、教育施設への空調設備設置工事の発注が複数予定されているが、関係する業種や工期が限られるため、押し上げ効果は一部にとどまるとみられる。現状では人手不足に改善の兆しはみられず、引き続き、国や業界全体での労働環境改善に向けた動きに期待がかかる。</p>
	


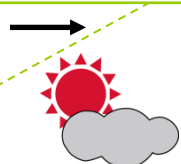
民間工事 : 新設住宅の駆け込み需要はピークを迎えるが、増加は小幅にとどまる

<p>現況</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業で工場等の新設が複数あったほか、非製造業でも物流拠点などの新設工事があり、堅調に推移した。新設住宅は、所得環境の改善に加え、消費税増税を見据えた動きもあり、持家のニーズが高まった。貸家についても、相続税対策など引き続き根強い需要があり、底堅く推移した。一方、分譲については、今期はマンションの新規着工がなかったこともあり、弱含んだ。資材価格や労務費の高止まりに対して価格転嫁が進み、収益は改善傾向にあった。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>民間企業の建設投資は、製造業で海外需要の見通しの変化から設備投資に慎重な姿勢もみられるが、複数の企業で工場等の新設が予定されている。また、非製造業でも大型の福祉施設の新設等があり、安定した工事量を維持する見通し。新設住宅は、3月末までに契約した場合、引き渡し時期に関わらず現行の税率が適用されるため、駆け込み需要のピークを迎える見込み。ただ、増税幅が小さいことや、政府の反動減対策などもあり、前回増税時ほどの大幅な増加はないとみられる。</p>
	


旅客 : スキーを目的とした外国人観光客増加に期待がかかる

<p>現況</p>	<p>貸切バスは、秋季行楽シーズンを迎え需要は高まったものの、ドライバー不足により受注できないこともあり前年並みだった。高速バスは、年末の日並びが良く観光利用、帰省利用ともに前年よりやや増加した。観光地行き路線バスも、天候に恵まれ山岳観光ルートを中心に前年よりやや増加した。燃料価格は後半に下落したものの、期中平均では前年より高く利益は減少傾向となった。タクシーは、昼間利用は前年並みだったが、夜間は節約志向による利用減少が続き、全体では前年よりやや減少した。</p>
	
<p>見通し</p>	<p>貸切バスは、オフシーズンのためスキー関連を除き減少する見込み。高速バスは、スキーを目的とした利用と首都圏や関西方面への観光を目的とした利用によりやや増加する見通し。スキー場行き観光路線バスは、外国人観光客を中心に前年より増加する見通し。こうした中、深刻なドライバー不足等を背景に路線バスの減便を実施・検討する動きもみられる。タクシーは、昼間利用は暖冬が予想され前年をやや下回り、夜間利用も引き続き振るわず、全体として前年をやや下回る見通し。</p>
	

貨物 : 製造業を中心に貨物量は堅調な見通し

<p>現 況</p>	<p>全体の貨物量は堅調に推移した。特に、製造業の荷動きが活発で、自動車部品や建設機械部品、工場向けの大型機械などの運送需要が強かった。食料品は年末に向けた季節需要があったが、例年より降雪が遅れたことで、スキー場関連で集客が進まず荷動きは鈍かった。一方で工事用の建設資材の需要が伸びた。運送依頼に応じられず受注を制限せざるを得ない状況もみられた。上昇を続けてきた燃料価格は、期の後半から下降に転じたが、期中の平均価格で見ると前年よりも高く、利益を圧迫した。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>貨物量は引き続き堅調に推移する見通し。製造業は自動車部品や建設機械部品を中心に順調な荷動きが予想されるほか、食料品や飲料も堅調な見込み。ただ、ドライバー不足の状況が続くため、受注を制限する動きは続く見込み。ドライバー定着のための待遇改善や採用のためのコスト増が見込まれるほか、庸車に頼る状況は変わらず、庸車代の高止まりが懸念される。増加するコストに対応するための、適性運賃確保に向けた値上げ交渉は続くと思われる。</p>
	

ホテル・旅館 : 外国人観光客の利用の伸びに期待

<p>現 況</p>	<p>観光客の利用は、秋の行楽シーズンを迎える中、天候にも恵まれ、都市部・観光地ともに堅調であった。スキー場周辺地域では、降雪が遅れた影響で12月中旬頃までは利用が伸び悩んだが、降雪量が確保された年末は例年並みの利用を確保した。ビジネス客の利用は、堅調な企業活動を背景に、都市部を中心に安定して推移した。ブライダルは、挙式形態の多様ななどの影響を受け、都市部のホテルでは件数・規模ともやや低調だった。宴会部門は、年末の忘年会需要を迎え、利用は堅調であった。</p>
	
<p>見 通 し</p>	<p>スキーシーズンを迎え、スキー場周辺では堅調な利用が見込まれるが、その他の地域では誘客要因に乏しく、例年並みで推移するとみられる。スキー場周辺以外では、旅館組合などが中心となってイベントを開催したり、温泉街全体でキャンペーンを行ったりすることで誘客を図る地域もある。スキーや観光を目的とした外国人客は、オーストラリアやアジア諸国を中心に利用の伸びが期待される。ビジネス客は、都市部のホテルを中心に引き続き安定して推移する見通し。</p>
